



# 花見山の繋がりをつむぐ・伝える

## ～花見山公園 園主編～

渡利地域包括支援センターでは、数年前から年間を通して花見山の取材を続けてきました。

今回、花見山公園 園主の阿部一夫さんに直接会う機会をいただきお話を伺うことができました！  
花卉園芸、公園の手入れなど多忙な1年を過ごす中でも、花見山への想いを引継ぎ、地域・人とのつながりを大切にしていることを教えていただきました。お話を伺い、私たちも花見山に足を運ぶことがさらに楽しみになりました。



三代目 阿部一夫さん

### 先代の思い…花は人の心を癒してくれる

私有地の山に道を切り開き、花を植え…一つ一つ手作業で作りに上げてきた花見山。初めは失敗続きだったが諦めず続け、昭和34年4月2代目阿部一郎さんが「花見山公園」と命名。「花は人の心を癒してくれる」という一郎さんの思いから私有地の無料開放をはじめ、現在も三代目の阿部一夫さんがその強い思いを引き継ぎ、花見山を守っています。  
一夫さんは、幼い頃から家族と一緒に花を育て、背負子やリヤカーで花を売る経験をしています。

一夫さんにとって、花見山は暮らしそのものに共に成長し続けていると感じました。



### 三代目の軌跡



- 仙台の病院より難病 ALS 患者へ桜を見せたいと相談を受け、母屋の縁側にベッドを設置し、患者さんに桜を鑑賞していただいたことがある。
- 桜の木の間に菜の花を植えている。
- 孫が連れてくる友だちが庭の花を摘み、生け花をしている姿を喜ばしく思い眺めている。



「自分だけのちからではなく、地域みんなのお陰で今がある。」

「花見山は地域で支え合って保たれている。」

だからこそ、すべての人へ感謝と思いやりの気持ちが込められた暮らし方になっていることがわかりました。

「どんなにつらいことがあっても花をみると心が救われる。多くの方々に花を見てもらうことで癒されてほしい。花は心を癒してくれる」と笑顔で話される一夫さんの言葉がとても印象的でした。

取材に同行した職員は渡利包括に来て数か月のため、綺麗に花が咲きほころぶ花見山をまだみることができていません。包括職員以外にも実際に足を運び素晴らしさを体感した方がほとんどでした。

一夫さんの花への想いや背景を伺ったこと、先日花見山ふもとへ菜の花の種まき体験をしたこともあり、今から来春がとても楽しみです。

